

# 第3学年 道徳（ESD 道徳） 学習指導案

奈良教育大学附属中学校

指導者 有馬一彦

## 1 単元名「TAKE A STAND！～あるオリンピックの選択～」

【希望と勇気，努力と強い意志，世代を超える価値感・人権】

## 2 単元の目標

- 自己の判断や感覚が過去の経験や属する社会、時代背景によって大きく影響を受けていることに気づく。また、周りの判断と自己の判断が異なる場合の対処方法や思考方法について深く考察することができるようになる。（知識及び技能）
- 人権に対する確かな価値感や社会・文化の壁を越えた価値感とは何かを考えることができる。他者の人権を守るためには、自己犠牲が伴うことがあることに気づき、当事者としてどのような対処ができるのかを深く考えることができる。  
(思考力・判断力・表現力)
- 自分の今までの経験を振り返ったり、今後の未来を想像したとき、自分がどう判断しどう行動するのかについて、見通しを持って深く考え、これからの自分の行動について主体的に決定できるようになる。（主体的に学習に取り組む態度）



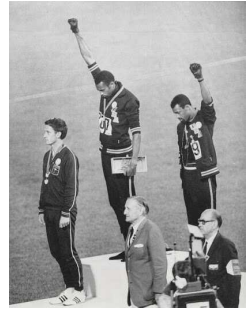
## 3 単元について

### (1) 教材観

本単元では、アメリカを中心とした黒人差別撤廃運動下で開催された1968年メキシコオリンピックでの出来事を題材に、他者の人権を守ることを選択した若者が自分の人権を犠牲することとなった歴史的事例を用い、自分が道徳的に正しいと思う行動を実際に行うことの難しさや意義深さについて触れさせたい。

## (2) 出来事のあらすじ

この出来事の起きた年の4月4日黒人差別撤廃運動の中心人物であるキング牧師が暗殺された。差別撤廃派はオリンピックに黒人選手を参加させない方針を打ち出していた。当時の陸上界の実力者でありメダル獲得が確実視されていたトミー・スミスとジョン・カーロスも、その意思に共感しオリンピックの辞退を考えたそうだ。結論として彼らは周りの反対の声の中、オリンピックに参加を決めた。彼らの服の胸には、人権を求めるオリンピックプロジェクトを掲げたワッペンが貼られていた。



オリンピック委員会は、すべての政治的な言動をきつく禁止しており、彼らの行動は強く非難された。彼らは前評判どおり200mで1位と3位を取った。世界中が注目する表彰式、アメリカ国旗と国歌が流れ、アメリカの国威が全世界にアピールされる檜舞台でこの出来事は起こった。表彰式の控え室でトミーとジョンは黒人差別に対する反対運動をしめす黒い手袋と黒いソックスを用意していた。2位に入っていたのは、オーストラリアの新鋭ピーター・ノーマンだった。彼ら様子を見ていたピーターは、「僕にできることはあるかい？」と2人に声をかけた。トミーらは「君は何もしなくていい」と言った。しかし、ピーターは彼らの行動に賛同の意を示し、あのワッペンを付けて表彰式の臨んだのだ。

トミーらは表彰台に上り、「ブラック・パワー・サリュート」と呼ばれる拳を突き上げるポーズを行った。この行為に対して、オリンピック委員会は彼らの行為を「オリンピック精神の基本原則に対する計画的で暴力的な違反」として強く抗議した。彼らはアメリカオリンピックチームから脱退させられ、選手村からは追放させられる。彼らはアメリカに帰っても迫害を受け、不遇の人生を歩むこととなる。

ピーターも母国オーストラリアから厳しく非難された。行動に対する謝罪のチャン

スを求められたが、それには応じなかった。次のオリンピックでは、200mでの選手の派遣すら行われず、ピーターの選手経歴が続かなかった。その後の2000年のシドニーオリンピックにも彼は招待されていない。栄光に輝くはずの銀メダリストは、闇へと葬られ、彼の名誉は回復されないまま亡くなった。彼の国オーストラリアもまた原住民のアボリジニの隔離やアジア人差別を行うなどの白人至上主義の国であった。

## (2) 生徒観

本校の生徒は、比較的真面目で道徳的な意識は高いと思われる。周りの雰囲気や流れを大きく崩すような言動は少ない。それは一方、周りに合わせたり対面を気にしている生徒が少なくないという面も持ち合わせている。自分がどう行動すれば、周りに合わせられるかに行った同調圧力が強いのも現代の特徴とも言えるだろう。自分の判断と周りの判断が異なる状況で、自分の意見が言えるか否かは、本校の生徒に関わらず難しい課題であると言える。

## (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、ピーター・ノーマンの視点でこの出来事を捉えてみたい。差別される側ではなく、差別をしている側の集団に属しながら、自己の信念に基づき行動した彼の選択について、自分事として考えさせたい。自分が何もしなければ、名声と栄誉に囲まれた未来が約束されていた。その輝かしい未来を捨ててでも、自分の信じる人権意識を優先させた。そのような場面が、私たちの日常でもないだろうか？ そんな場面で、自分の信じる価値感に従った行動ができるだろうか？ 自分事に落とし込み考えさせたい。

## (4) ESDとの関連

### ・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・ 相互性・・・周りの価値感と自分価値感、違った価値観の存在に気づき、どのように自己を構築していくかを考える。

- ・ 公平性・・・有利な側に自分がいるとき、不利な側にいる人間の立場で考えることができるだろうか。

- ・ 責任性・・・自分の行動が、少なからず周りに影響を与えていることに気づき、一つ一つの行動について責任感を持たせたい。

- ・ 本学習を通して育てたい E S D の資質・能力

- ・ 批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

その時代で当たり前とされていた価値感が、時代と共に変化していることに気づき、現在の自分の価値感が本当に正しいのかについて考える。

- ・ 多面的・総合的に考える力（システム・シンキング）

同じ現象でも、違う立場から見ることによって物事の見え方や感じ方は変わってくる。多面的な観察力が需要である。

- ・ コミュニケーションを行う力

他者と関わることで、違った価値感に触れることができる。自分とは違った見方

- ・ 考え方を持つ人に対しても、広く関わることで自己を広げることができる。

- ・ つながりを尊重する態度

相手の考えや価値感を共有することで、自分を高めることができ、より深く物事に携わることができる。

- ・ 本学習で変容を促す E S D の価値観

- ・ 世代間の公正

今を生きている人間の豊かさや便利さだけを考えるのではなく、次の世代の人々も同じように豊かさが享受できるように努めることが大切である。

- ・ 達成が期待される S D G s

- ・ 10 人や国の不平等をなくそう ・ 3 すべての人に健康と福祉を

- ・ 1 貧困をなくそう

#### 4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>①自己の判断や感覚が過去の経験や属する社会、時代背景によって大きく影響を受けていることに気づいている。</p> <p>②周りの判断と自己の判断が異なる場合の対処方法や思考方法について深く考察することができている。</p>	<p>①人権に対する確かな価値感や社会・文化の壁を越えた価値感とは何かを考えている。</p> <p>②他者の人権を守るためには、自己犠牲が伴うことがあることに気づき、当事者としてどのような対処できるのかを考えている。</p>	<p>①自分の今までの経験を振り返ったり、今後の未来を創造したときに、自分がどう判断しどう行動するのかについて、想像し深く考えている。</p>

#### 5 単元の指導計画(全3時間)

学習活動	学習への支援	評価・備考			
<ul style="list-style-type: none"> <li>写真①「ブラック・パワー・サリュート」の写真を見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3人の背景を語っていく。</li> </ul>				
発問「ブラック・パワー・サリュート」という言葉を知っていますか？					
<ul style="list-style-type: none"> <li>出来事について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカの公民権運動について</li> <li>オリンピックについて</li> </ul>				
発問あなたがピーター・ノーマンの立場なら、どうしますか？					
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; border: none;"> <b>A一緒にサリュートをする</b>                      ・人権を守る行動ができる。                      ・大会のルールに違反することに                      ・下手するとメダル剥奪も、                      ・母国の国民からは非難されるか                 </td> <td style="width: 33%; border: none;"> <b>B何もしない</b>                      ・大会関係者からは                      攻められない。                      ・自分のメダリストの立場                      は守ることができる                 </td> <td style="width: 33%; border: none;"> <b>Cサリュートやめてもらう</b>                      ・大会関係者からは攻められない。                      ・彼らの主張は、できない。                      ・スムーズに式が終えられる。                 </td> </tr> </table>			<b>A一緒にサリュートをする</b> ・人権を守る行動ができる。 ・大会のルールに違反することに ・下手するとメダル剥奪も、 ・母国の国民からは非難されるか	<b>B何もしない</b> ・大会関係者からは 攻められない。 ・自分のメダリストの立場 は守ることができる	<b>Cサリュートやめてもらう</b> ・大会関係者からは攻められない。 ・彼らの主張は、できない。 ・スムーズに式が終えられる。
<b>A一緒にサリュートをする</b> ・人権を守る行動ができる。 ・大会のルールに違反することに ・下手するとメダル剥奪も、 ・母国の国民からは非難されるか	<b>B何もしない</b> ・大会関係者からは 攻められない。 ・自分のメダリストの立場 は守ることができる	<b>Cサリュートやめてもらう</b> ・大会関係者からは攻められない。 ・彼らの主張は、できない。 ・スムーズに式が終えられる。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>ピーターの立場になって考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>彼らの行動について</li> </ul>	ア①			
<ul style="list-style-type: none"> <li>何もしない選択肢を選んでいたら</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問「自分ならどうする？」</li> </ul>	ア②			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その後のピーターの人生について</li> <li>・ 自分では変えられない価値感と出会ったときどう行動するか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 別の選択肢を選んでいたらを 考える。</li> <li>・ 不遇な人生を歩んだピーターについて考える。</li> <li>・ 自分にとってマイナスでも、正しい選択ができるのか？</li> </ul>	イ①②
---	--	-----

発問：人間の持つ価値感、時代の流れや場所によって変化する。今は当たり前のことでも、何年か後には変化しているかもしれない。時代の変化と共に変わっていった価値感を他に知っていますか？

発問：ピーター・ノーマンはその後、どうなっただろう。

答え：ピーター・ノーマンは国民やマスコミから非難的となり、メダルは全く評価されなかった。4年後のオリンピックも標準記録を突破したのにもかかわらず、選手として選ばれなかった。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分では正しいと思っていることが本当に正しいのか？時代や環境に左右されているのでは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分では当たり前を思っていることが、本当に当たり前なのか？</li> </ul>	
--	---	--

発問：自分の価値観と周りの人の価値観が違ったとき、果たして自分の価値観で判断し、行動することはできるだろうか？自分の価値観とは、違った価値観と出会ったとき、自分の価値感を変えることはできるだろうか？

#### 《その後のピーター・ノーマンについて》

1970年頃になると、黒人の人権についての理解がアメリカで広まり、徐々にトミーとジョンの行動に対して「人権差別と戦った英雄」としての理解が広まっていく。しかし、ピーターの栄誉は回復されなかった。甥のマットは、「なぜ、サリュートに同調したのか」尋ねるとピーターは「見て見ぬふりをすることができなかった。そうしてしまうと、彼らを差別する人たちと同じになってしまう。肌の色なんて関係ない。そして、人間はみんな平等だと言った。」マットは、後悔していないかたずねる。しかし、ピーターはしていないと強く言った。「たしかに得るはずだった多くを失ってしまったかもしれないが、心は満たされている。自分の信念を貫き通せた。」と答えた。